

シリーズ田園回帰各巻内容

2巻以降のタイトルは仮題です。
内容は変更になる場合があります。

都市から農山村へ、若い子育て世代の移住が増え始めている。この田園回帰の動きを明らかにするとともに、農山村が受け皿としてふさわしい地域として磨きをかけるための組織や場づくり、新しい地域貢献・地域循環型の事業のあり方、それらを総合的にプラン化するビジョンと戦略づくりを示し、都市農山村共生社会を展望する。

【協力】 全国町村会

【編集顧問】 大森 彌（東京大学名誉教授）

【編集委員】 小田切徳美（明治大学農学部教授） 沼尾波子（日本大学経済学部教授）

藤山 浩（島根県中山間地域研究センター研究統括監） 松永桂子（大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授）

■ 1 田園回帰 1%戦略—地元にと仕事を取り戻す— 藤山浩著

自治体消滅の危機が叫ばれているが、毎年人口の1%を取り戻せば地域は安定的に持続できる。島根県での小学校区・公民館区単位の人口分析をベースに、地域人口ビジョンの立て方、1%の人口取戻しに対応した地域内循環の強化による所得の取戻し戦略と新たな循環型の社会システムを提案する。

■ 2 人口減少に立ち向かう市町村 農文協編

Iターン・Uターンを多く迎え入れている地域、地元出身者との連携を強めている地域など、全国の田園回帰のフロンティア市町村を取材。自治体の政策と地域住民の動きの両面から徹底的に掘り下げる。

■ 3 田園回帰の実践—過去・現在・未来— 小田切徳美編著

農山村への移住には様々なハードルがある。たとえば、仕事、家、地域とのお付き合い。先発地域はこの問題をどのように乗り越えたのか。また、現在の「地域おこし協力隊」の若者は、どう対応しているのか。田園回帰の過去、現在、未来を明らかにする。

■ 4 交響する都市と農山村 沼尾波子編著

都市と農山村の暮らしの今をとらえ、それぞれの課題を浮き彫りにするとともに、これからの時代を切り開く新たな都市・農山村の交響する関係にふれながら、田園回帰の社会経済的な意義について考察する。

■ 5 ローカル・ソーシャルに生きる 松永桂子・尾野寛明（有限会社エコカレッジ社長）編著

地域をベースに活動するソーシャル志向の高い若い世代にターゲットを当て、彼ら彼女らの価値観、世代観から、今後の地域のあり方を考える。成熟社会のライフスタイル、実践から、新たな共助の意識が地域に根づきつつあることを示す。

以下続巻

■ 6 農林業の新規参入—自治体・JAなどの実践—（仮題） ■ 7 子どもが育つ農山漁村（仮題）

■ 8 歴史と世界に学ぶ田園回帰（仮題）



姉妹誌

季刊地域

A4変型・130頁
年4回/1,4,7,11月発行
定価926円 年間購読料3,704円(税込)

バックナンバーも発売中！

21号 草刈りを担うのは誰だ 19号 地域資源だ荒地のカヤ
18号 地域おこし協力隊をむらにとりこむ 16号 山、見てみぬふりをやめるとき
12号 薪で元気になる！
11号 地エネ時代—農村力発電いよいよ／祭りの復活と継承

★次号22号・夏号の特集は「空き家徹底活用ガイド」 7/5発売予定

■ シリーズ田園回帰（全8巻） セット

★各巻2,200円+税・6月第1巻刊行予定、以降2-3カ月に1冊刊行予定

- | | | |
|--|----------------------|---|
| ■ 1 田園回帰 1%戦略—地元にと仕事を取り戻す— 978-4-540-14243-7 | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 2 人口減少に立ち向かう市町村 978-4-540-14244-4 | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 3 田園回帰の実践—過去・現在・未来— 978-4-540-14245-1 | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 4 交響する都市と農山村 978-4-540-14246-8 | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 5 ローカル・ソーシャルに生きる 978-4-540-14247-5 | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 6 農林業の新規参入—自治体・JAなどの実践— <input type="text"/> | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 7 子どもが育つ農山漁村 <input type="text"/> | <input type="text"/> | 部 |
| ■ 8 歴史と世界に学ぶ田園回帰 <input type="text"/> | <input type="text"/> | 部 |
- 雑誌 季刊地域 最新号から定期 部

お申込

氏名（団体名）	（〒 - ）	番線
	ご住所	
（ご担当）		
TEL.	FAX.	
E-mail:	@	

農文協 一般社団法人 農山漁村文化協会

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 <http://www.ruralnet.or.jp/>
TEL. 03-3585-1142 FAX. 03-3585-3668

*本カタログ情報は2015年4月現在のものです。 田園回帰/T